

3 家族と世帯

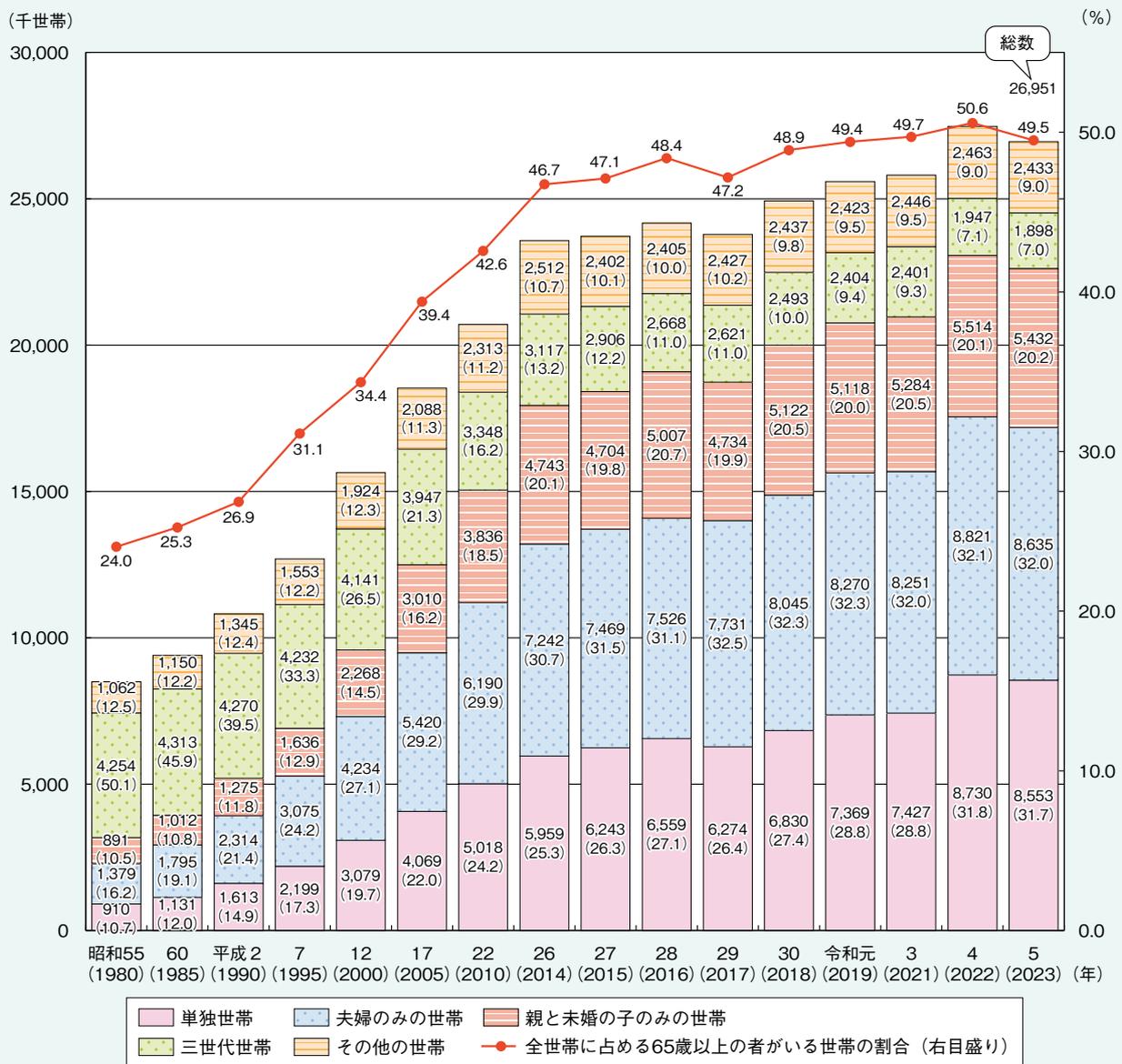
(1) 65歳以上の者のいる世帯は全世帯の約半数

65歳以上の者のいる世帯について見ると、令和5年現在、世帯数は2,695万1千世帯と、全

世帯(5,445万2千世帯)の49.5%を占めている。

昭和55年では世帯構造の中で三世帯世帯の割合が一番多く、全体の半数を占めていたが、令和5年では夫婦のみの世帯及び単独世帯がそれぞれ約3割を占めている(図1-1-8)。

図1-1-8 65歳以上の者のいる世帯数及び構成割合(世帯構造別)と全世帯に占める65歳以上の者がいる世帯の割合



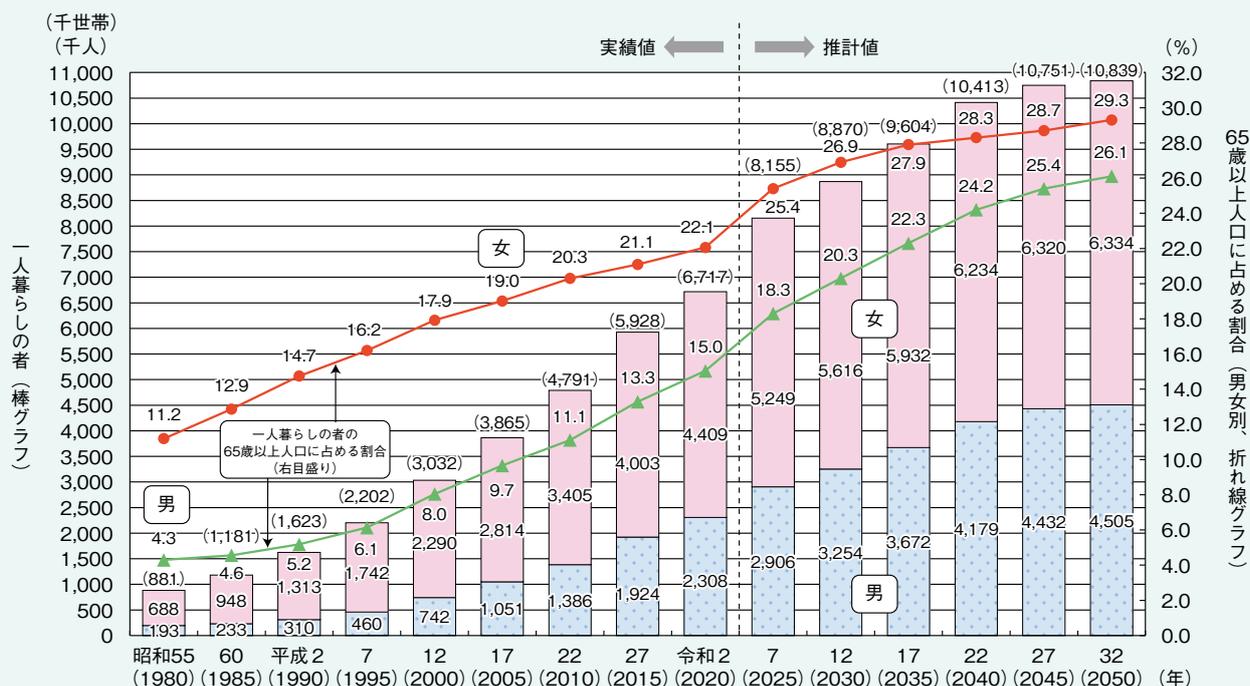
資料：昭和60年以前の数値は厚生省「厚生行政基礎調査」、昭和61年以降の数値は厚生省／厚生労働省「国民生活基礎調査」による。
 (注1) 平成7年の数値は兵庫県を除いたもの、平成28年の数値は熊本県を除いたものである。
 (注2) () 内の数字は、65歳以上の者のいる世帯総数に占める割合 (%)。
 (注3) 四捨五入のため合計は必ずしも一致しない。
 (注4) 令和2年は調査中止。

(2) 65歳以上の一人暮らしの者は増加

65歳以上の一人暮らしの者は男女ともに増加しており、昭和55年には65歳以上の男女それぞれの人口に占める割合は男性4.3%、女性

11.2%であったが、令和2年には男性15.0%、女性22.1%となり、令和32年には男性26.1%、女性29.3%となると見込まれている(図1-1-9)。

図1-1-9 65歳以上の一人暮らしの者の動向



資料：令和2年までは総務省「国勢調査」による人数、令和7年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計（全国推計）」（令和6（2024）年推計）による世帯数
 (注1)「一人暮らし」とは、上記の調査・推計における「単独世帯」又は「一般世帯（1人）」のことを指す。
 (注2)棒グラフ上の（ ）内は65歳以上の一人暮らしの者の男女計。
 (注3)四捨五入のため合計は必ずしも一致しない。
 (注4)2020年以前は家族類型不詳等を除いた値、2025年以降は家族類型不詳等をあん分した値にそれぞれ基づく。